



スルメイカ (秋季発生系群)

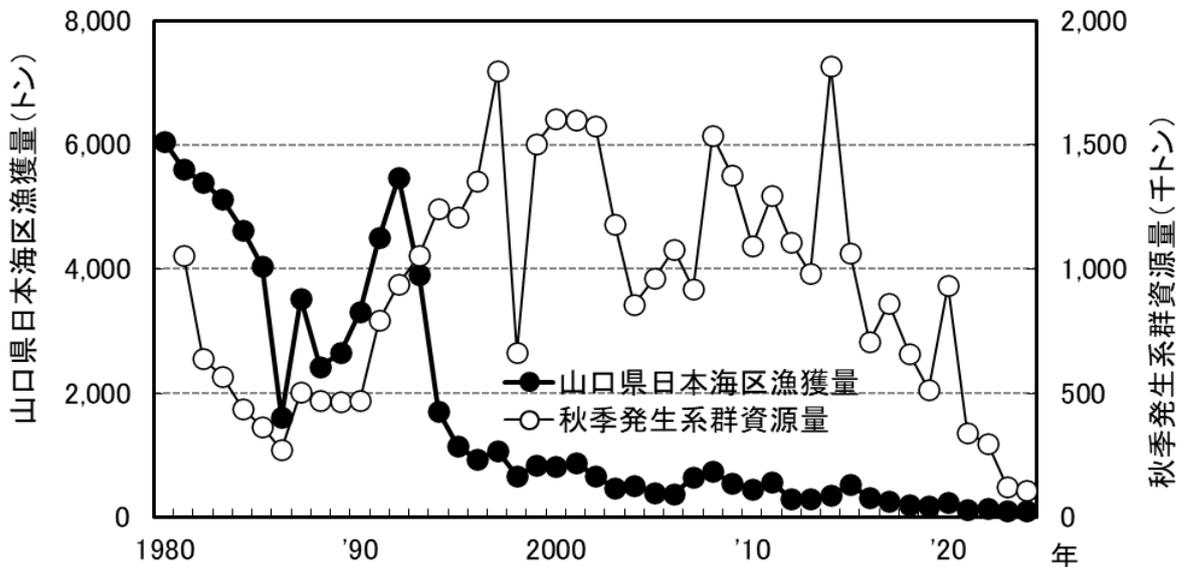


図 山口県日本海区スルメイカ漁獲量 (漁業・養殖業生産統計年報) 及びスルメイカ秋季発生系群資源量 ((国研) 水産研究・教育機構 資源評価報告書)の推移

【漁業】スルメイカは主にいか釣りにより漁獲されるが、山口県ではケンサキイカを主な漁獲対象としており、近年スルメイカを狙った操業はほぼ無くなった。10～12月には秋季発生系群の南下群、1～3月には冬季発生系群の南下群が漁獲される。また、春季には秋季発生系群の幼いか (イキレ) が定置網で混獲される。

【漁獲量】山口県日本海区の漁獲量は 1980 年の 6,058 トンをピークとして急激に減少し、1986 年には 1,620 トンになったが、1987 年以降は増加に転じ、1992 年には 5,470 トンに達した。その後は再び急減し、2024 年の漁獲量は、107 トン (暫定値) であった。

【資源状態】資源量は、2016～2019 年漁期は低い加入が続いたため減少し、2020 年漁期に一旦は増加したものの、2021 年漁期以降再び減少し、2024 年漁期には 108 万トンと推定された。

2024 年漁期の親魚量 (SB) は、最大持続生産量 (MSY) を実現する親魚量 (SB_{msy} : 目標管理基準値) を下回った。また、2024 年漁期の漁獲圧 (F) は、MSY を実現する漁獲圧 (F_{msy}) を下回った。親魚量の動向は減少と判断された。

2024 年漁獲量 (万トン)	MSY (万トン)	2024 年親魚量 (万トン)	目標管理基準値 (万トン)	限界管理基準値 (万トン)	禁漁水準 (万トン)
1.6	24.0	4.7	25.5	12.3	0.9